

充実の秋 ～ 授業の高みを目指して ～Ⅲ

校内授業研も佳境へ

これまでもお伝えしてきましたように、今年度の本校の授業改善のテーマは、「見通す」「振り返る」を充実し、「できた」が実感できる算数科の授業作り～で、主体的に学びに向かい、考えを伝え合う子どもの育成に力を入れています（学校だよりNo.27をご覧ください）。

さて、今号では校内授業研（低学年ブロック研修）として、1年1組で遠藤教諭による算数科『ひきざん』、グリーン全校研として、土橋教諭による2年生の算数科『新しい計算をかんがえよう』を研究の視点である「見通しの充実」や「交流の充実」の様子を中心にお伝えします。

11月2日（水）1年1組 遠藤教諭 ～ 13-9の計算のしかたを考えよう ～



問題の把握

どんぐりが13あります。
9こつかいました。
どんぐりは、なんこのこっていますか。

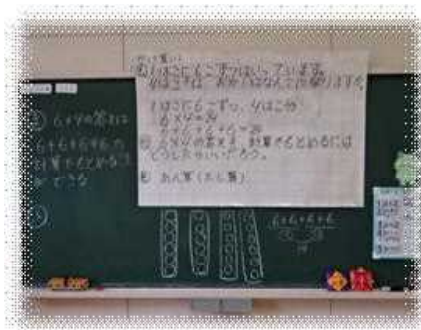
見通しを立てる

- ・一の位同士では引くことができない
- ・10のかたまりから9を引いて
けいさんすればよい

子ども達がクロームブック（端末）を使いこなし、集中して次々と問題を解いて自信をつけていく姿が見られた。

また、交流の場面では、相手の考えが、自分の意見と同じか違うかについてもしっかりとやりとりをして理解するなど上手に交流していた、などの意見がありました。

10月17日（月）グリーン（里の子）2年 土橋教諭 ～ 新しい計算を考えよう ～



10月17日（月）にグリーン学級で全校研を行いました。単元名は「新しい計算をかんがえよう」で、2年生3名の児童が集中力を高め、落ち着ける環境の中で学習しました。この授業では、『6×4の答えを計算で求めるにはどうしたらいいだろう』を課題に学習しました。

発表が積極的で、九九を知っている子に対しても、きちんと考え方を説明させているのが良かった。また、具体物（お菓子を箱に入れる作業）によって答えの見通しが立てられていたので、6こずつ、4箱分の意味が理解しやすくなっていた、などの意見がありました。

全校研やブロック研の様子は次号以降、あらためてお伝えします。

緑園中エリア・ファミリーの連携を大切に

緑園中学校エリア P T A 講演会に行ってきました



講演中の参加者との交流の一コマ



エクササイズの一コマ



11月22日（火）、緑園中学校を会場にP T A 講演会が開催されました。コロナ禍のため、ここ2年間は実施を見送ってきましたが、感染症予防対策を講じて40名の方々の参加をいただきました。講師にコーチ羅針盤代表 秦 公一さんをお招きし、子どもとの関わりの中で大切にしたいことを、コーチングの視点から、1時間ほどお話ししていただきました。

講演のすべては紹介できませんが、『声かけのポイント』や『話しを聴いてあげることによる効果』など、講演のスライドをもとに紹介します。

「声かけ」のポイント

- よくなったことを伝える
- プロセス（過程）を重視する
- 感謝のことばを伝える
- あいさつ、返事



聴かれることの効果

- 尊重されているという実感をもてる
- 自分の思いや考えを整理できる
- いろいろな気づき生まれる



話を聴いてくれていると・・・
安心感、自己肯定感、信頼が生まれる

教 ⇒ ティーチング（知識・スキルなど）

育 ⇒ コーチング

（相手の思いを引き出す）

ヘルプ と サポート

*ヘルプは手伝える（手をかける）

*サポートは見守る（手を出さない）



今回の講演から、子ども自身が『自分のことを自分で決めること（自己決定）』ができるように、『声かけ』や『聴くこと』を上手に使い、環境を整えることが大切であると感じました。

結びに、講演会に参加された方々の感想等をいくつか紹介します。

- ・「自分の振り返りとなりました」 ・「明日から早速実践してみたいと思います」
- ・「自分に心当たりがあることがたくさんあり、それではダメだと分かりました」
- ・「日ごろの子どもへの言葉かけを振り返り、少し反省しました」
- ・「子育てだけでなく、仕事、生活にも幅広く活用できると感じました」

お忙しい中、講演会に参加いただき、本当にありがとうございました。

後記

今号の標題「小雪（しょうせつ）」（二十四節気のうちの一つ）は、わずかな雪が降る頃という意味です。山などに雪がみられる時期となりますが、それほど雪は多くないことから小雪と呼ばれるようになったそうです。江戸時代の暦の解説書『暦便覧（こよみびんらん）』には、「冷ゆるがこ故に雨も雪となりてくだるがゆへ也」という言葉があり、日が短くなり、空気が冷え、雨が降ってくる間に雪になっているという意味があるそうです。

